

Kiko

モントリオール

気候ネットワーク

〒604-8124 京都府京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル305 Tel: 075-254-1011 / Fax: 075-254-1012
 〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-7-3 半蔵門サウスビル 2F Tel: 03-3263-9210 / Fax: 03-3263-9463
 E-mail: kyoto@kiconet.org (京都) tokyo@kiconet.org (東京) URL: http://www.kiconet.org/

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。

「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

いよいよ最終日、閣僚交渉の行方は？

大臣ステートメント終了

7日から始まったハイレベルセグメントは、8日も、大会議室において絶え間なく大臣のステートメントが続いた。小池大臣は午前、国内対策を紹介した後、「京都議定書は動き出した。京都議定書の重要なミッションを満すために機能させ、もっとやらなければならない。」「この会議で、3条9項を検討するプロセスを始めなければならない。」と述べ、京都議定書を踏み台として、すべての国が行動する実効性のある将来枠組みを構築する道筋を引き出す努力を始めなければならない、と途上国や米国にも議論への参加を呼びかけた。

会議にやってくる参加者たち

今回の会議は、京都会議に匹敵する規模の1万人を超える参加者が集まっている。サイドイベントも百を超え熱気に包まれている。顔ぶれは政府のほか、NGO、マスコミ、研究者産業界、学生など多様だが、実際の交渉の行方をつぶさにフォローしている人は非常に少ない。深夜の会議場は、非公式会合に関わる政府関係者とその動向を追う限られたNGOやプレスのみ。温暖化対策の重要な決定が話し合われている深夜の会議場は異様にひっそりとしている。

次期枠組みの議論の進展

今日一日、「次期枠組み」のプロセスの合意に向けて、頻繁に行われている2国間の大臣会合や、会場の5Fや7Fの小さな部屋で数十カ国が集まって夜を通して進められていたハイレベルな非公式会合の行方に関心が向けられてきた。

それまで実務交渉者レベルでの非公式協議が断続的に続いてきたが、最終日の前日の夜9時になって最初の閣僚級会議が始まった。

ここまででまず先進国のさらなる削減についてのプロセス作りにはほぼ合意をみたようである。世界全体での削減を進めるために、先進国の率先してさらなる削減を進めていくことは重要なことであり、京都に続くプロセスを作り上げることは今回の会議で最も重要なことである。最終的には全体の合意を見るまで安心はできないものの、3条9項についてひとつの方向性を得られたとの情報はホッとしたニュースである。

残される課題は、途上国と米国を含む幅広い参加についての道筋づくりだ。途上国はこれまで、次のプロセスにかかるところでは全て反対するという強い姿勢を取ってきていることが懸念材料だ。

また、アメリカの参加に関しては、ブッシュ政権にその気配が全くなく、いかなる合意にも反対する姿勢である。アメ

リカの対応は誰もが想定していた範囲のことであったとはいえ、このような妨害は許容しがたい。時間不足が懸念される。

歩み寄って合意を

最終日を迎え、関係者からはあせりの声、苛立ちの声、不安の声、などが漏れ聞かれる。条約交渉では、最終局面で徹夜交渉に入り込むことが多いのだが、今回も、徹夜の厳しい交渉となっている。

ここまでくると、求められるのは各国の歩み寄りの姿勢である。1週目から続けられた交渉を経て、予想以上に相互の譲歩を引き出すことの出来なかった先進国と途上国の間の不信感は、小さくない。いずれも相手方に行動を求めながら、どちらも譲らない構図だからだ。途上国も、温暖化防止のために次の取り組みには共に行動する姿勢を示していくことが必要であろう。そして、アメリカについては、所詮ここでブッシュ政権が建設的な行動を取ることに期待できないことを考えれば、ここは現実的に全体の合意をしっかりとまとめるべきであろう。

Kiko COP11/MOP1 通信 No. 5

2005年12月9日発行

発行/編集 気候ネットワーク

浅岡美恵、平田仁子

現地携帯 +1-514-578-6376 (川阪)